

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	エンゼルホーム北野	評価実施年月日	平成19年12月20日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	荒木 聡夫	記録年月日	平成19年12月23日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>利用者の個性を大切にすることを理念に盛り込み、誰が見てもわかりやすい理念をつくりあげている。</p>		今後も継続していく。
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>スタッフ各自がいつでも理念を確認できるように名札の裏に理念を携帯しミーティングの際にも理念に従った内容を盛り込み、来訪者の目に付きやすい場所に理念を掲示している。</p>		今後も継続していく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>定期的に運営会議を行い、地域の民生委員・町内会長に参加を働きかけ理解していただけるよう取り組んでいる。又、定期的に家族へエンゼル通信(広報誌)を発行し季節の行事への参加を働きかけている。</p>		今後も継続していく。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>挨拶をかわしたり、町内会の行事(清掃など)に参加している。また、内覧会を催し気軽に立ち寄れるホーム作りを目指している。</p>		今後も継続していく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会に入会し、回覧板で行事等のお知らせが案内された時には積極的に行事に参加するよう心がけ地域の清掃にスタッフ・入居者が参加し交流を深めている。</p>		今後も継続していく。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>年1度に内覧相談会を実施し、相談・質問に対応している。</p>	○	<p>今後はその機会をもっと多くしていき、回覧板などのツールを有効に利用して地域にむけて発信していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価の意義や目的を全職員で理解し、自己評価に取り組んでいる。また評価を活かすために会議を行い話し合いをもっている。</p>		今後も継続していく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営会議では入居者の状況やサービスの実際について協議しあい、外部評価についても報告・改善計画と実施内容を意見をもとに進めている。</p>		今後も継続していく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>制度、運営上の問題など、直接担当者に連絡し、アドバイスをいただいている。</p>		「市町村とともに取り組むサービスの質の向上」に関しては正直勉強不足である。市町村の求めるサービスの質と現場がイメージするサービスの質にズレが生じないように、積極的に担当者とコミュニケーションを取っていく必要性を感じている。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修・運営会議等で制度を学び話し合う機会は多いが、制度を利用する必要がある入居者がいないのが現状である。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>日常的に虐待について話し合っている。特にネグレクトについては見過ごされないように各自スタッフが細心の注意をはかり、鈍感になりやすいことあるので小さな気づきに敏感になるように努めている。</p>	○	今後も継続していく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居時、契約の説明を十分に行い、理解、納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員。ならびに外部者へ表せる機会を設けている。		玄関に苦情箱、苦情申立先を明示したパネル、印刷物を置いている。また苦情箱に寄せられた投書は他を経由せず、直接経営者の目に入る体制をつくっている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。		月1度、1ヶ月間の日誌を送付するなど、書面による状況報告のほか、健康状態に関することは緊急性を求められることが多いので随時の報告を行っている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族などの意見、不満、苦情などを、管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設けている。		玄関に苦情箱、苦情申立先を明示したパネル、印刷物を置いている。また苦情箱に寄せられた投書は他を経由せず、直接経営者の目に入る体制をつくっている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月定期的にスタッフ会議を開催し、その内容を会議議事録にまとめ、運営者・管理者に把握・理解してもらっている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職を最小限に抑える努力と、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。また、受け持ちスタッフを作っており(定期的(ローテーション)スタッフ全員が共有できるようにしており、離職時には新しい担当者へ申し送っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>実践者研修やスタッフ研修、また外部・内部問わず研修を積極的に取り入れている。</p>	<p>研修等の案内が来たときは運営者が管理者と相談し、それに即した職員の派遣を行っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修の際や、地域で行われる情報交換会などに積極的に参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に職場を離れたスタッフ親睦会を行い、日々のなかでも気軽に話ができる環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>今後も継続していく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職員間で話し合い、毎月の目標を設定し、それを掲示することでモチベーション向上にも役立っている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前に生活状態を把握するよう努め、本人の入居するに至っての状況・背景を理解し、馴染んで安心して生活していけるよう、まず信頼関係の構築に努めている。</p>	<p>入居してからのトラブルを未然に防ぐため、契約までに十分な説明と本人の理解をいただいている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族が求めているものを理解し、どのような対応が出来るか事前に話し合い、次の段階につなげるよう努力している。</p>	<p>入居してからのトラブルを未然に防ぐため、契約までに十分な説明と本人の理解をいただいている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な場合は特に柔軟な対応を行いスムーズに入居できるよう努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族より入居前の情報をこと細かく収集し、それをもとにスタッフが関わっていき、本人が不安にならないようにご家族等にも面会等を通して協力していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	昔の生活・習慣・食事等を話題にし参考にしたりしながら、個々の得意な事・やりたい事等を見極めそれを生活の中に取り入れるようにしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の思いを伝え、安心した関係をもてるように努めている。また面会や行事への参加をお願いし、一緒に支えていけるよう配慮している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	両者の思いを聞いた上でそれぞれに伝え安心した関係が持てるように努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う入居者を把握し、散歩・外出・行事・食席等を含めより良い関係づくりが出来るよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了してもご家族の方や利用者の不安が少しでも軽減できるよう面会や相談等行い関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的な会話を通して入居者の思いや希望を確認し、場合によって個人カンファレンス等行い、その人らしい生活が送れるよう努めている。また困難な場合、ご家族にも参加・協力を仰いでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式等のツールを有効に利用し、一人一人の生活歴や馴染みの暮らし等の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式等のツールを有効に利用し、出来る事と出来ない事を計り現状を総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式作成に関わり全員で情報を共有し、本人がより良く暮らせるように課題とケアのあり方を明確にしたうえで本人・家族・必要な関係者と話し合い介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しを行うことはもちろん、状況の変化に対してカンファレンス等開催し柔軟な対応が出来るように努めている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフだけがわかるのではなく、一目見て家族が日々の様子・ケア内容や変化等わかるように細かく記録に落とし込み、日々の介護計画の見直しにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて通院等、必要な支援は柔軟に対応し、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながらの支援の準備はできている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援の準備はできている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加していただいております。関係を築くことは出来たが、まだ十分に協議しながら本人本位の支援には結びついていないと思う。	○	今後とも運営推進会議を通じ、より良い協力関係を築き、情報を得たり支援に関する情報交換を行い、より本人本位の支援に結び付けていけるよう努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者を良く知るかかりつけ医院の看護師や地域の看護職に気軽に相談している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医に生活状況等を相談・報告し、適切な指導・治療が受けられるように支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者を良く知るかかりつけ医院の看護師や地域の看護職に気軽に相談している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	情報交換を密に行い、安心して入院生活が送れるように努め、面会も行い早期に混乱なく退院できるよう連携している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	グループホームで出来る事が限られている為、出来るだけ早い段階から本人にとってどうあったらよいのか御家族の意向を大事に出来るだけ最大の支援ができるように関係者(医師含む)と話し合い方針の共有に努めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人やご家族の意向を踏まえた上でかかりつけ医・職員が連携し随時、意志のを確認しながら取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>今まで使用していたなじみの物を持ってきていただいたり、思い出の写真等をツールとして活用できるよう配慮している。また、十分な話し合いや情報交換を行い、ダメージを防ぐことに努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>誇りやプライバシーを重んじ、一人一人に合った声かけや記録を行い、尊厳ある生活ができるように努めている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の思いや希望を表せるように声かけし、様々な場面において自己決定を促し、尊重し自分で決めて納得できる暮らしがおくれるよう支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>1日の流れとして基本ベースはあるが、必ずそれに沿った生活を強要せず、個々のペースに沿った内容で1日を有意義かつ安心して過ごしていただけるよう支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>日々、身だしなみやおしゃれができるように支援し、訪問による理・美容サービスも受け入れ、また本人の馴染みの理美容院等を利用できるように家族の協力も仰いでいる。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニュー作成時にも一緒に相談しながら好きな物をメニューに取り入れたり、簡単な調理・片付け等も一緒に行い入居者とスタッフが一緒に食卓を囲む事で楽しく食事ができる空間を共有している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々に好きなもの等を把握し、日常的に食事やおやつに盛り込んでいる。また、飲酒についても飲みたい時に飲めるようにしており、晩酌を楽しんでいただいたりしている。タバコは職員で預かり、希望に応じて他者の迷惑にならないよう決められたスペースにおいて喫煙していただいている。(喘息の方等おられる為)		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた声かけ・支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	あらかじめ設定した入浴日以外に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。また、入浴を拒む方に対しての声かけの工夫やチームプレーによっていかに気分良く入浴していただけるかに配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の生活習慣・希望等に考慮して散歩や買物などの声かけをしている。また、夜間寝つけない方には居室やリビングでお話したり飲み物等を提供したりし、安心して眠れるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の得意な事を把握し、それに従ってお願い出来そうな事は頼み、必ず感謝と労いの言葉かけをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の協力も得てお金を自分で管理できる方もいる。自分の財布からお金を出すことで社会性の継続に繋げ、好きな物を好きに買えるというごく当たり前の事を通して自分の存在感・生きている実感を見出して貰えるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や本人の希望に応じて季節感を感じてもらえるよう日常的に散歩・買物・ドライブへ出かけている。また、庭にある畑で作業する事で心身の活性につなげられるよう支援している。	○	冬期間は畑作業・散歩の機会が減少することなどから、車を利用したのスーパーへの買い物を実施している。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	スタッフが対応できない場所等にはご家族の協力を得て出かけられる機会をつくり支援している。	○	毎年全体で日帰り旅行を実施している。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望にあわせて電話していただいたり、出来ない方には代行して番号を押したり代わりに会話する等して支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが訪問できるように配慮をしている。	○	野外の焼き肉などのイベントがあるときなどは、ご家族にも周知しており、訪問しやすい環境作りを心がけている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ全員が理解しており、日々の情報交換・ミーティング等で意識しながらケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯上の問題により、夜間のみ玄関を施錠しているが、鍵をかけないケアについては、運営者及び全ての職員が理解した上で実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	同じ空間で記録等の事務作業も行い、さりげなく全員の状況を把握するようにし、夜間は時間ごとに安眠・様子確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	1人1人の能力に合わせ家族の方とも協議しながら進めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	1人1人の状態から危険予測をシュミレートし、事故を防ぐ為の工夫に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を行っているほか、緊急時のマニュアルも常備している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時の避難方法のシュミレーションや地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。また、年に何度か避難訓練を行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こり得るリスクについては、入居前から家族等に説明し、常にリスク回避のための対応策を話し合い、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握し、食欲・顔色等に様子の変化が見られた時はバイタルチェックを行い、継続的に記録をつけ状況により医療機関受診へ繋げている。些細な事でも気づいた事があれば管理者・リーダーに報告はもちろん、スタッフ連絡ノートを活用し、情報の共有をはかり対応している。	○	ケアカンファレンスや日常での申し送りだけでは、全体への周知不足の可能性も考えられることから、連絡ノートを導入している。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	必ず、どのような薬を服用しているのか、飲み方・副作用を医師・看護師より指示を受け理解している。	○	処方薬に関する資料をファイルするなどして、薬の目的や副作用、用法や用量について確認できるように努めている。症状の変化についても医療との情報交換を積極的に行っている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食材やメニューに留意し、バランスの良い食事を提供し、1日の水分量をチェックし散歩等、身体を動かす機会を設けている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨き、義歯洗浄を支援し訪問歯科の定期的な受診をし、連携を取っている。また、スタッフも口腔研修等に積極的に参加している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を行っていくため、職員が献立を考え、また水分量は毎日チェック表を用いるなどの工夫を行っている。		特定の疾患のある利用者については、医療からのアドバイスにより、水分の制限もあるので、チェック表を有効利用している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して、情報収集を行い、その都度、職員に周知してもらい入居者には家族の方にも同意していただき、職員ともにインフルエンザの予防接種を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒の予防のために、台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	外玄関には花等を置き、気軽に立ち寄っていただけるように配慮している。毎日の玄関まわりの掃除や、冬期間の除雪など。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員が共有部分の音や光の調節を行い、入居者が不快な思いをしないように努め、居心地のよい生活空間を目指した工夫を行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	職員が共有部分の音や光の調節を行い、入居者が不快な思いをしないように努め、居心地のよい生活空間を目指した工夫を行っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談しながら、馴染みのものなどを持ってきてもらい本人が安心して過ごせるような工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調や換気を常に行っている。温湿度調整も温湿度計を設置し調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。要所への手すりは設置しており浴槽の滑り止めマットを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の各部屋に表札やトイレなどに目印を設けるなど、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。個々にあった支援をすることにより、混乱や失敗を未然防いでいる。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭にはベンチやテーブルを置き、また広い畑など、利用者が楽しんだり活動できるような場所づくりを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)